

所属研究機関からの支援の内容等

研究代表者等の所属研究機関から本国際共同研究に対して行われる支援の具体的内容（海外渡航支援、機関間協定、研究スペースの提供等）及び期待される効果について、また、大規模・長期間の国際共同研究に係る研究遂行や人材育成等の経験を研究機関に還元する方策について、合わせて 1 頁以内で記述すること。

―― ※留意事項 ―――

研究計画調書作成に当たって留意すること

- 1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・入力要領を必ず確認すること。
- 2. 本文全体は 11 ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
- 3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
- 4. 本様式は合計 2 ページとし、空白の頁が生じても削除しないこと。

本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時には本留意事項を削除すること。
(\JSPSInstructionsなどを消す)

所属機関からは旅費が支給される。ただし、往路の分だけである。その意図は不明である。
研究スペースは、今までの居室の代わりに、地球上で居室以外の全空間を与えられる。これにより、研究スペースの面積は 3×10^{13} 倍になる。
失敗談を話して笑ってもらう落語会を開いて、貴重な研究の経験を研究機関に還元する。その方が、まじめな報告会よりも人々の心に伝わる。

人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領 4 頁参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1 頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

該当しない場合には、その旨記述すること。

象の卵の ES 細胞の培養、象のクローンの生成などを行わない。象個体を現地から持ち出すことはない、ワシントン条約ならびに生物多様性条約に抵触しない。また、組換え実験は行わないので、カルタヘナ議定書にも抵触しない。

1

2 4.1 ついでに L^AT_EX の便利な機能

3 4.1.1 節

4 通常通り `\subsection`, `\subsubsection` などが使えます。番号は自動的につきます。

5 番号なし節

6 `\subsubsection*` のように* 付きを使うと、節の番号がつきません。

7 4.1.2 コメント文

8 L^AT_EX では当たり前ですが、今はとりあえず消すけど使う可能性のある文章は、消さずに行の
9 頭に % をつけてコメントアウトすると、後で復活できます。TeXShop や TeXWorks では、複数行
10 選んでまとめてコメントにしたりコメントから外したりできます。

11 4.1.3 編集用の行番号

12 `lineno` というパッケージを使えば、`\linenumbers` と `\nolinelnumbers` の間の行に行番号が振ら
13 れます。これは編集集中に他の人からコメントをもらうときに便利です。

14 **最終版の PDF を作る前に、行番号は消してください。**

15 4.1.4 編集用の欄外のメモ

16 `\memo` を使うと右の例のように、欄外にメモを書けます。

17 **最終版の PDF を作る前に、L^AT_EX ソースファイルの 60 行目付近にある指示に従って、`\memo` 欄外メモ
18 を無効化してください。** だよ